

五行歌

秋 山 昭 子

（藤沢日曜歌会）

立秋・・・はて？
残暑・・・はて？
どこか片隅に
追いやられた
季節のことは

浅 野 征 子

（藤沢火曜歌会）

八十路をこえれば
「齢」考えない
時には実年齢で
時には見た目年齢で
自然体で生いけたらいいね

新 井 奈々草

（藤沢日曜歌会）

線状降水帯が
こんなに降らせたら
雨乞いの神様
立場がない と
嘆く

飯 田 敏 一

（藤沢火曜歌会）

世の安寧を祈つての
神社の例大祭
祭り囃子が町中に響く
紅白の彼岸花
一緒になつて寿ぐ

石川 トシ

(藤沢日曜歌会)

「こんな筈じゃなかった」
が

部屋中に
ぼろぼろ落ちてるから
足元注意ね

石松 いさを

(藤沢日曜歌会)

十月に咲く朝顔は
気温の変化に
苦勞をしている
花の大きさが変わり
色までも変えている

いわき やすお

(藤沢火曜歌会)

フライパンは
毎日使うと錆びない
人の心も同じ
日々感動を持つと
錆びないかも

牛島 芳一

(藤沢火曜歌会)

蝶の道を
迷い無く
舞い抜ける
クロアゲハ
はて?! 私は…

遠藤 由里

(藤沢日曜歌会)

昨日 TVに出た
近所のパン屋さん
今日は朝から
大行列
メディアの力、こわさ

緒方 真子

(藤沢日曜歌会)

「カノン」を奏でるオルゴール
終わりが近づくと
テンポと音量がゆるむ
それで良い
私の日々もゆるみがち

岡本 まさ子

(藤沢日曜歌会)

水であり
川であること
思い出したか
ふいに
堰を超える音

小原 美子

(藤沢日曜歌会)

一生に一度の
紅をつけて
芙蓉の花
母の旅立つ
くちびるのいろ

菊地敬子

(藤沢火曜歌会)

黒豆 金平 昆布巻
つましい手作りお節
病後ゆえ酒はなし
二人向い合ってるのが
最高のお節

志津

(藤沢日曜歌会)

七夕に飾る
竹のように
重い願いを
背負っても
しなやかでいたい

黒木 允

(藤沢日曜歌会)

老いば老いる
ほどこに「心」
軽やかに登れる
五行詩歌という
楽しい山には

柴田成子

(藤沢日曜歌会)

満ちては欠け
欠けては満ちる
律儀なお月さん
秋は殊更ことごと
べっぴんさん

鈴木春野

(藤沢火曜歌会)

無理しないでが多い昨今
娘からお母さんなら
出来るから頑張つて
と肩押され
やる気芽生える

高原伸夫

(藤沢日曜歌会)

大地が生み出す希望
木々や草花
穀物に野菜が
人間の暮らしを
豊かにしてくれる

草 庵

(藤沢日曜歌会)

不思議だなー
五十年前旅先で
出逢った娘と
今日も二人で
昼寝する

高原 美智子

(藤沢日曜歌会)

柔らかくなった
日差しに
心から寛ぐ
秋という季節に
感謝しながら

田 中 き み

(藤沢火曜歌会)

細身の秋刀魚さん
いただきますーす
さっぱりとしたお味
太目の私には
ちょうどいいかも

寺 田 篤 弘

(藤沢日曜歌会)

なんとかなるよ
なるようになるよ
みんなそうだよ
それでいい
人間なもの

西 川 彩 子

流れてゆく白い雲と
隣でねている娘の
寝息だけが
生きてるみたいな
午後の2時

西 田 明 子

(藤沢火曜歌会)

老いてゆくと言う事は
今の自分そのもの
親のこんな時に
チャンと解っていたら
もつと孝行できていたかも

橋 本 圭 子

(藤沢日曜歌会)

出会えて
良かった
と
思える
人がいて
しあわせ

松 岡 雅 子

(藤沢日曜歌会)

障がいある息子を
グループホームに
送り出した朝
ブルーグレーの空
広がる

細 谷 修 一

(藤沢火曜歌会)

「元気なさそう?」
「絶好調!」
「お味はどう?」
「おいしい!」
一日二回嘘をつく

松 本 希 雲

(藤沢日曜歌会)

支えて下さった
方たちが次々と
先に去って行かれる
夕暮れに寂しさが
老いを包む

茂木 知恵子

(藤沢日曜歌会)

わき道 寄り道 回り道
道草をする

春は

花に誘われて

道 迷う

横山 礼子

(藤沢日曜歌会)

上野駅での
地下鉄の乗り換えで
オロオロ

久しぶりの東京は
あの頃の私？

山口 博子

(藤沢火曜歌会)

手こずった夏に

別れを告げることく

残りのアイス珈琲

ゴクリと飲み干す

待ちくたびれて 秋